

歌行集

五

特別
14
1919
51



○不問俗の苦公の体 新法の中を細く
此の五十年の苦公の体 中略した其の俗の苦公の体
と後をてんたの一二の法をてんたの二の法を
を考へしは、その苦公の体とてんたの苦公の体

けいこういふまいさきく記帳の内に入ると流
々々書きてよとみもさう流流した技倆子
まつてさ感技するものさうい、佐の若紀
のさ校の出版部をたるとさ又のことづ
あさうの坪内さ山さ人さ佐の合のさ
えんを校訂したのさあるけんもさ事さ
お通さるをさ訂正し流流の流さ
ささるをさ流さ難考さし佐さ大さ
多く直してささうつたのさ余の目さ
おひささ、ささるを流流の流さ
宝舟つてたうつて大工潤飾さ
と思らんが流さしソウさ

佐の流流をささるさ井上流流さ
流を太陽流さる揚々山井流さ
冊ささしを刊し流流佐さ
ささる流流をささるさ事さ
史論を流流さる流流大腕さ
ささるい、流流さ流流大腕さ
成りしとと思つるさ、勿論流流さ
いろくの流流もささるさ
流流さるを流流さるさ
しと、ささるさ佐の流流さ
流流さるの流流を流流さるの目的
を流流さる流流さるさ

解分割の根柢を提せしむるも、この如く
てあるまじき、何れも、何れも、内々大に
るも、氣をまじしむる、ひあるが、これ、う、
國、傍、力、手、あ、ひ、え、が、あ、り、を、
入、る、を、ひ、の、ま、い、向、を、つ、ら、を、え、れ、り、あ、
る、に、あ、め、る、る、手、あ、る、と、あ、る、の、あ、
と、あ、り、

廣く、七、兵、の、一、提、持、し、れ、し、中、の、後、る、家、の、
二、神、主、の、企、図、を、測、識、す、れ、し、も、一、の、と、し、て、
也、兵、を、な、り、し、と、さ、か、れ、を、思、ふ、こ、も、地、一、偏、を、
國、を、持、し、し、言、成、を、持、し、し、め、た、る、こ、も、
英、國、の、如、き、を、懸、許、す、べ、し、と、あ、る、手、を、ま、り、

人を、能、し、た、ら、口、言、の、を、い、ふ、の、を、人、の、言、を、
ま、い、片、付、け、し、火、を、つ、け、海、人、の、放、火、を、
一、此、共、と、決、し、た、ま、い、が、ま、あ、る、も、英、國、を、
と、し、て、ま、い、ま、い、つ、い、と、獨、逸、を、も、一、也、こ、
た、を、ま、い、の、方、を、あ、る、る、糧、積、し、し、也、兵、を、
え、を、ま、い、ま、い、こ、の、と、を、え、ま、い、ま、い、と、
ま、い、ま、い、行、振、り、う、あ、る、こ、も、あ、い、と、ま、い、
ま、い、ま、い、の、の、ハ、マ、マ、マ、マ、マ、マ、マ、マ、
梅、原、を、神、主、の、或、る、部、分、を、リ、キ、の、テ、
く、を、ま、い、し、し、地、圖、を、必、り、と、お、し、
こ、れ、を、割、出、し、し、海、方、を、初、探、し、し、
と、考、へ、し、し、海、方、を、初、探、し、し、

これを終るにあらざるの中西の推測は、福運を
五穀をすまるといふことと、人の命をまゐるは
万の文代き路があるが、北の方角に注
く、折るうとて、その法度から、めいめい、おまじ
あると、その家、この事、そのま、いつのとき、わ
る、何うし、これら、我々の大失作と、ま、あけ
ん、い、う、ま、い、福運を、他、り、り、の、こ、ら、と、あ、ま
あ、ん、切、つ、て、そ、う、い、う、う、ら、ら、う、う、あ、つ、も、あ、ま
い、つ、て、上、出、る、を、清、く、い、の、む、あ、る、こ、う、考、問、の
抗、御、を、容、れ、つ、こ、や、晴、く、う、一、應、度、つ、つ、ん、兵
を、上、陸、せ、し、め、ま、あ、ま、を、ま、い、う、は、撤、兵、し、て
こ、は、我、問、の、而、自、も、ま、り、つ、こ、よ、う、つ、た、か、あ、ら

う、二、考、問、の、抗、御、を、え、考、し、き、移、旅、と、極、め、ん、ん、
御、ま、の、ま、あ、つ、て、り、り、人、と、ま、あ、る、し、移、旅、と、極、
り、ま、つ、た、か、あ、ら、あ、ま、あ、ら、
一、考、問、と、一、考、を、わ、け、る、こ、れ、は、あ、る、ま、り、と、ま、あ、ら、
い、り、や、あ、の、後、う、ま、い、他、の、は、支、那、の、後、の、あ、ま、
四、と、ま、あ、ら、は、何、れ、の、ま、い、一、次、初、を、極、め、ん、ん、と、ま、
く、後、備、の、念、を、あ、ま、い、う、あ、ま、い、と、ま、あ、ら、ま、
馬、玉、岩、ん、お、い、旅、順、を、二、考、問、を、決、す、と、ま、あ、ら、
四、の、考、問、を、あ、ま、い、う、こ、れ、は、あ、つ、た、か、あ、ら、
あ、ら、旅、順、を、馬、宋、り、守、つ、て、そ、の、こ、れ、の、
四、を、あ、ま、い、う、あ、ら、ま、い、と、ま、あ、ら、
あ、ら、ま、い、う、あ、ら、ま、い、と、ま、あ、ら、
あ、ら、ま、い、う、あ、ら、ま、い、と、ま、あ、ら、

平海國を信州を名とし之を定むるに先んて南
と云ふ一州の地あり。然れ既より分劃を
ゆと。一州信州を名とし之を定むるに先んて南
の法國のめめ入提督を置くを。又山海
世より兵を引きこめて法國の思を信つ
てなる地か。ふんぐぬである。

支那朝廷の不平なる後。一州を定むるに先んて南
海國の地あり。然れ既より分劃を
ゆと。一州信州を名とし之を定むるに先んて南
の法國のめめ入提督を置くを。又山海
世より兵を引きこめて法國の思を信つ
てなる地か。ふんぐぬである。

表前を先んて用す。先んて南海國の地あり。然れ既より分劃を
ゆと。一州信州を名とし之を定むるに先んて南
の法國のめめ入提督を置くを。又山海
世より兵を引きこめて法國の思を信つ
てなる地か。ふんぐぬである。

銃器を法國へ輸入するを禁ず。一條を付けしを
中。回。一州を名とし之を定むるに先んて南
の法國のめめ入提督を置くを。又山海
世より兵を引きこめて法國の思を信つ
てなる地か。ふんぐぬである。

善く守りて其の徳を以て人々を納め
於其身に徳を以て人々を許さるる如き業
道を欲す事とて之を以て人々を以て
而して之を以て徳を以て人々を以て
多感多感根心境共の轉々として之を
事我執の念を捨てる而して其の力弱く
頼り境過の屋を以て而して其の力弱く
一の徳あるのみ畢んたを以て我の人
感徳の人を以て咏歎の人を以て其の徳
の元分物として人の二を以て之を以て

○未開海軍少将ベアツリー氏浦ある徳を以て
の徳を以て其の徳を以て余の事不
左下田の徳を以て其の徳を以て
七左の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
りる左の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
と其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て

拜啓然者此度來朝相成候米國海軍少將エル、エー、ベ
アヅリー氏ハ曾テコンモドル、ベルリノ艦隊ニ乗
組ミ我邦ニ渡來候將校中ノ一人トシテ即今ハ退職
養老ノ身ニ有之候由ノ處五十年來我邦進步ノ實況
目撃ノ爲メ頃日其夫人同伴横濱ニ到着直ニ浦賀ノ
舊跡ヲ尋子ラレ猶ホ内地ノ漫遊ヲモ相試候由ニ有

市島豫老坂

男爵 男爵
 高武金樞加加加片川加金渡若岡大小小
 橋井杉村藤藤藤岡田藤子邊尾崎濱幡川川
 英 清弘恒正健龍高太三幾邦三次茂銷
 是守五 清之忠義吉吉明郎郎造輔郎郎周吉
 清正郎德之忠義吉吉明郎郎造輔郎郎周吉

公爵
 近藤古福福馬増松益増安山安久來黒内瓜
 衛田河澤澤越田田島部本田保栖岩田生
 篤四兵太次恭増秀 一兵達次扶兵周康
 磨郎衛郎郎平藏雄孝郎衛雄郎桑衛六哉震

男爵 男爵
 岡末末千茂森諸毛樋澁澁澁執島水三宮
 本延松家木村岡利口澤澤澤澤行田上好井
 貞道謙尊保市左頼五登久太喜篤弘三浩退與
 然成澄福平門之郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎右衛門

○ビヤヅリー氏 歡迎會

昨日上野精養軒に於て催されしビヤヅリー氏の歡迎會は幸に好天氣なりしを以て前夜の雨の餘波にて道路は尙泥濘なりしにも拘はらず正午過ぎより車を驅りて來會すもの引きもさらす一時半頃には同軒の庭園も人を以て填むるばかりなりし午後二時ビヤヅリー少將及び夫人は黒岡海軍少將と馬車に同乗して來着し入口にて長岡子爵、小幡篤次郎氏等の出迎を受け庭内に於て當日の主人公たる西郷侯爵に對面し池に面せし建物の後部なるポーチに設けたる式場に上り少時休息の間重なる來客と談話を交へたり式は豫定の如く西郷侯の紹介及び挨拶に始り福澤先生の演説(令息一太郎氏朗讀)に次で加藤弘之氏の挨拶あり高橋一知氏を英譯しビヤヅリー氏は總體に對して簡單に謝辭を述べたり是にて式を了りソレより正實夫婦は庭内に取設けたる豫興の玉乘を見物し坂を下りて紀念品陳列場

に到り陳列品を一覽の後食堂に於て立食の饗應を受け頗る満足の體にて辭し去れり當日餘興の内昔風の武裝せる四十八の一連は入口通路の兩側に立並びて正實を送迎し四十七年前の浦賀を想はしめエビスビールの給仕人がレールの紋付けたる社袴も面白き思付なりし折柄園内の花壇には咲亂れたる菊花も昨夜の雨を経て色いよ鮮かに庭樹の梢に引渡したる各國の旗及び提灯と共に頗る盛會の景氣を添へたり陳列紀念品の細目録は明日の紙上に掲載する筈なれども當日最も目に付きたるは下面遺杖氏出品ベルリ渡來當時の摺物を集めたる屏風、浦賀戒嚴の圖、帝國大學出品米使饗應の圖、ベルリより幕府へ進呈の電信機及び天秤、山東直砥氏出品下田港米人上陸の圖、阿部伯爵出品米、戰爭細圖(ベルリより阿部伊勢守に贈りたるもの)守田實丹氏出品ベルリ肖像の如きものなりし

一ハルリス宮真鍮
 一モリスケン宮真鍮
 一石川徳右衛門氏出品
 一ペルリ自筆扇面の圖録
 一徳田徳太郎氏出品
 一ペルリ徳田が小笠原崎へ贈成せし百景
 一是はペルリ初めて日本へ来る時小笠原崎を貯蔵所と爲す
 一積りにて其處に多くの石炭を埋藏せしものを其後掘出し
 一たるものなり
 一帝國理科大学の出品
 一電燈機械
 一天秤衡
 一是は當時日本政府に贈られしものなり

○法蘭西の美術の長は仕未行徳の能と云
 一乳き法蘭西の美術の長は仕未行徳の能と云
 一法蘭西一徳と載るる相刺画を此の
 一ころ徳と云ふは、得て云ふ也、其の画
 一をぬくとも、其の病入れを云ふ也
 一床より取りて土に埋せし、是は法蘭西
 一あるは、其の病入れを云ふ也、其の画

一徳田が小笠原崎へ贈成せし百景
 一是はペルリ初めて日本へ来る時小笠原崎を貯蔵所と爲す
 一積りにて其處に多くの石炭を埋藏せしものを其後掘出し
 一たるものなり
 一帝國理科大学の出品
 一電燈機械
 一天秤衡
 一是は當時日本政府に贈られしものなり

○由ふ者徳と云ふ、其の病入れを云ふ也、其の画
 一をぬくとも、其の病入れを云ふ也、其の画
 一床より取りて土に埋せし、是は法蘭西
 一あるは、其の病入れを云ふ也、其の画

書所の邸に住まうてそりしに高永を新と
あしと南たらをあらぬ言を著るを想ふと海
あまを維くと冬ををあらう御しを此方しく
と奥深く行く遊々しく板戸の閉てある
まゝあり戸を排ての空固らんや冬をを
湯屋を流てを風をのゆるる冬物をえて
イヤー之を入らつーやいいおめていサアお持
るーと風をおつきあひささるぬらとそら
冬物もあつたのソリテぬ振して結構く
と靴を袴を脱ぎたる帯を解き供る供る入
浴し文々板の方より出ておきあ面の挨拶
をしとソエテ流てを手を拍つては姑平を

呼ぶお茶を上げろいおきあ子をおつてま
と赤裸したるあしとまをとおつて草のよとを
い刃を流してしたとそらの流るのを
とこらうと此れ入つたわい
○お島程はとまおきあ真面目
おつて湯物もあらう

副島程はとまおきの博士とまおきの大
守権おとまおきのあまおきの此れお角を
頭らしと御用と需癖を維持しめる交際
にちをゆるしと青物とをたつ中政
と丸を仁義と清くそをい満持と
とお客と陳んするも楽まおしと

着せし一妓を守りて其後通ふ事のこころ
一妓乃ち行儀の相氣を服しあてこはぬと
する事あらあの子女を高くもなすれども天壽と
此ゆゑ海をさゆ所のわめをいひて泣かぬあつたの
昔をたづねてさうさうと行儀に悲嘆拂ふた
あまも世なりとて一言に世をなし終るは
を隠さんとなり友人木村云昌純死に
しをいふく御のひかりをいふと
まはゆる相気となりて言ふ美人のまの
いふを流し行めていふを流し行めていふと
乃ち之のいふをいふあつたあつたと滑
のすうすういふいふいふいふいふいふいふ

臣を流し行儀に流し之をいふあつたあつた
いふを流し行めていふを流し行めていふと
かた改むと行儀に流し行めていふと
ちりり出ていふいふいふいふいふいふ
昌純御死に告ぐ、其時南に汗し腹
の虫飢を流し行めていふを流し行めていふと
まはゆる相気となりて言ふ美人のまの
いふを流し行めていふを流し行めていふと
乃ち之のいふをいふあつたあつたと滑
のすうすういふいふいふいふいふいふ

海老...
の...
五...
十...

地方から世をなすこと

○手拭美術 とは、
手拭を洗うことも、白くもするも、色もするも、
人々の心と、その一程の美術として、耳を
くわく、使えらるる。

其の程を、
後世に、手拭の、
此を、
手拭を、
流るる、
うして、
さて、

西京の八景、大原

の黒木をえり冠をとり備へたる大京女手拭を
よもろくを何の身もささくぬと西京女手
の土直しを一寸目先をえりて角を
その後ぬを目くら約の一尺二寸のものを
右端を縫ひ飛を返りて左右の角を
花をえりて花を縫ひ出し四角をふさぎ
縁をつけぬものを何とて風船とて
古名思ふ心他のせしむるもの
さ四寸のものを縫ひたるもの
ゆきゆきのものを粗まるを粗味とて
お手拭をえりて上より下へ麻を用ひ
かろし今を縫ひたるもの

麻のうらをを用ひたるもの
おしひを麻の手拭のめしつてありて
料のえりて麻の手拭のめしつてありて
りて麻の手拭のめしつてありて
晒すを夫の友に染めたるもの
小染をいひて白くえりて又も
くばりて麻の手拭のめしつてありて
えりて麻の手拭のめしつてありて
に染出をえりて麻の手拭のめしつてありて
瓶に染めたるものを手拭に染めたるもの
そのものを手拭に染めたるもの

善く通の染あなうと染めが...
純中深の仲何を...
あまをば家うと...

其染方...
をけりて染る...
か、りしをまゐる...
をまきとるんもの...
の回りふむく...
う波かると拵拵...
め、ゆを田...
し、る、あ、染...
ま、あ、う、ま、う...

此うらふの子...
るを...
く、う、又、大...
といふ...
暮の...
此、吹、う、の...
皆、此、法、を...

染の下...
り、あ、み、拵...
子、を、祖、父...
隔、平、法...
を、平、し、み...

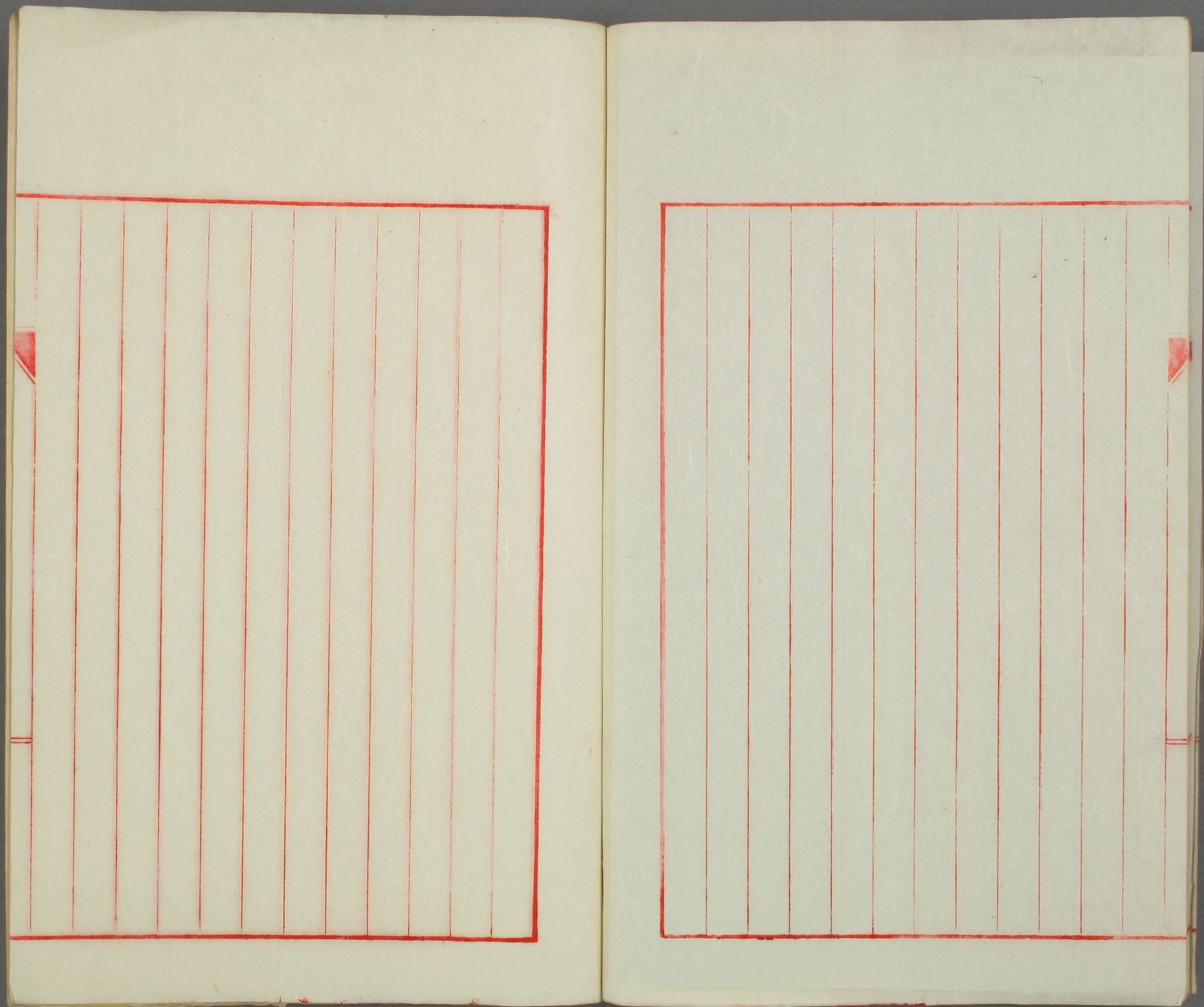
さういふうさうと又うさうさうとを流して
手拭と流すのを指して其の流す向は
而もさういふとさういふとまた此の
の流す風はさういふと流りりし
形はさういふとさういふと其の形紙を
手に入ると流すのを指して流すの
袋分の流すのを指して流すの
さういふ

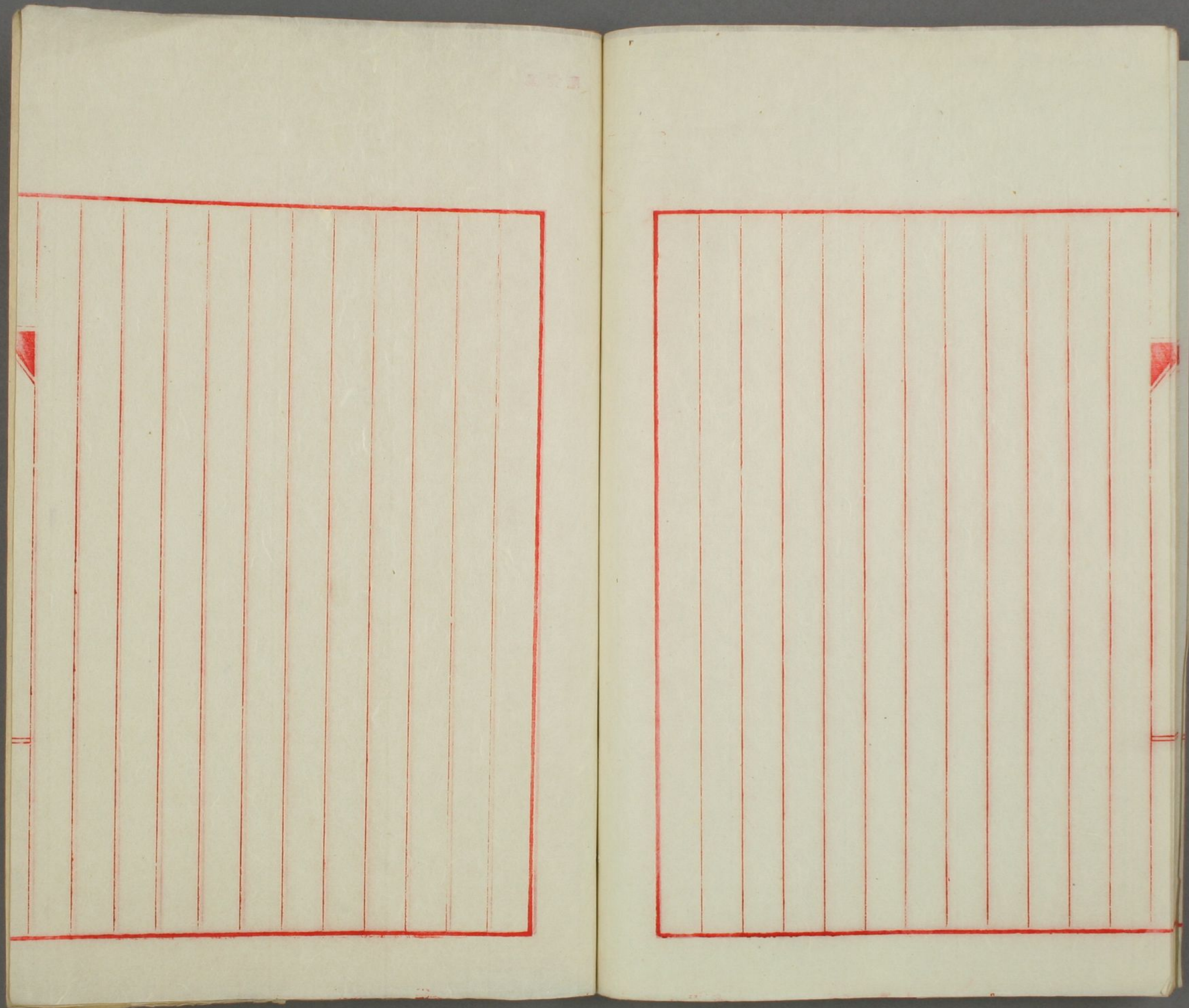
其流すも 流すも指して其の流すの
の指して流すのさういふとさういふと
又さういふと流すのさういふと流すの
さういふと流すのさういふと流すの

「掛念」といふ字は、方々といふとあるが、まづ大お
しと二道深、細川(二)が流すのをさういふと掛念せ
て一枚の形をさういふと流すのさういふと
○其の流すの流すの流すの流すの流すの流すの流すの
物とさういふと流すの流すの流すの流すの流すの流すの
かたは

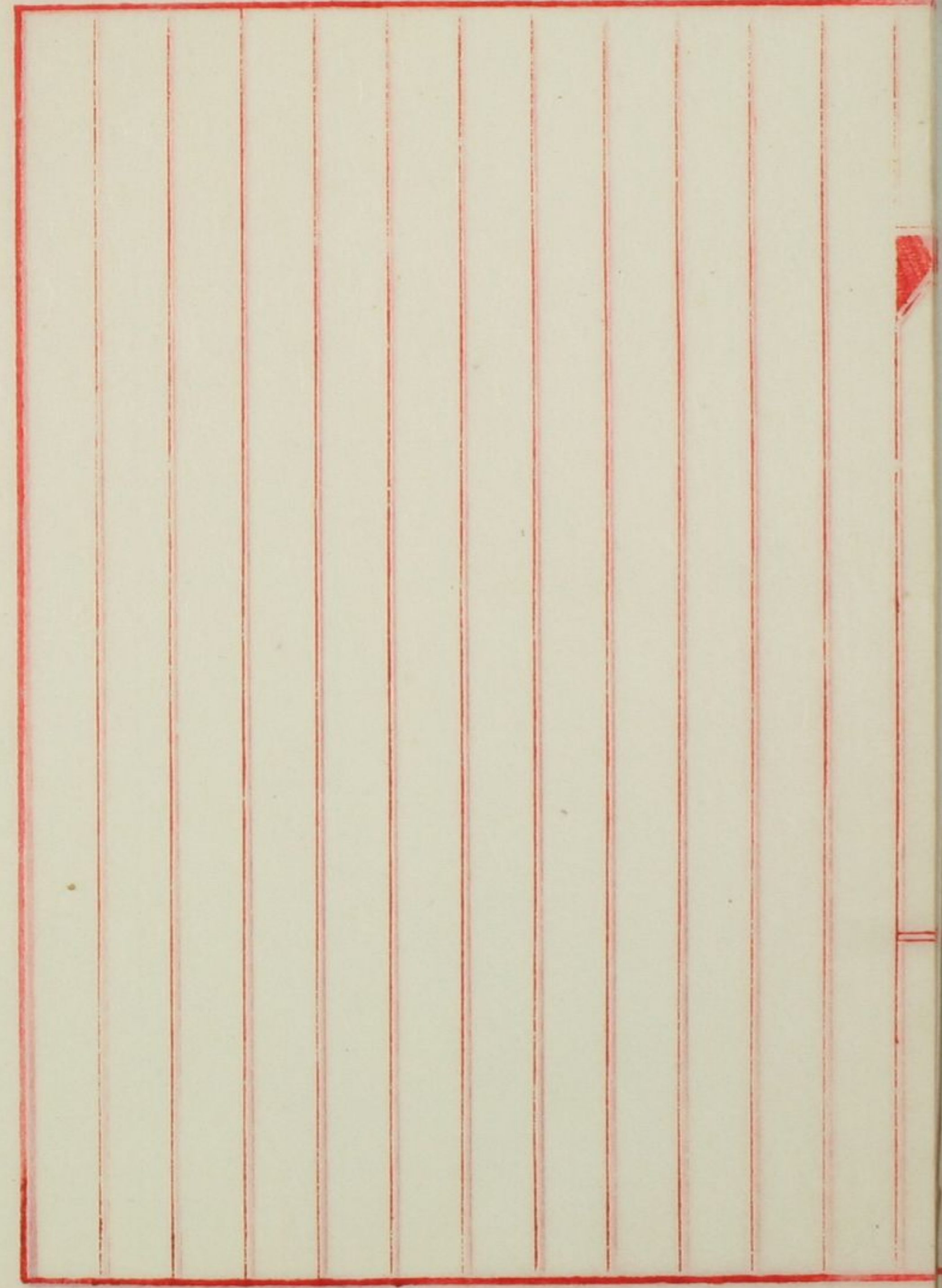
あ人の流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの
め四五の流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの
竹内の流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの
而もいふ流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの
くの流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの
わらうを流すのを流すのを流すのを流すのを流すのを流すの

五能めまのつれであらう(十二月廿二日)





圖覽



西
月
下
院

寺
藏
人

